

第69回北摂小児科医会プログラム

日時：平成22年12月11日（土）午後3時
場所：市立吹田市民病院 新館3階 講義室
〒564-0082 吹田市片山町2丁目13番20号
TEL：06-6387-3311/FAX：06-6380-5825

製品説明（15：00～15：15）

『ヒト化抗ヒトIL-6レセプター抗体 アクテムラ[®]』について 中外製薬株式会社 橋詰 雅之

一般演題（15：15～16：30） 座長 松崎 香士（市立吹田市民病院 小児科主任部長）

1) 「トシリズマブにより寛解を維持している全身型若年性特発性関節炎の1例」

市立吹田市民病院 小児科

東浦壮志、重川周、下寺建太郎、田中一樹、三輪谷隆史、板垣裕輔、松崎 香士

難治性の全身型若年性特発性関節炎（sJIA）に対しては、多量のステロイドや種々の免疫抑制薬が使用されてきたが治療効果は十分ではなく、患児のQOLの低下が問題となっていた。2008年4月に認可された抗IL-6受容体抗体であるトシリズマブ（TCZ）は、目覚ましい治療効果をあげ、難治性のsJIAでも治癒が期待できるようになった。当院でTCZの投与を行い、約1年間寛解を維持し目立った副作用はなく、QOLも著明に改善し、身長の伸びも得られている1症例を報告する。

2) 「デング熱の一例」

箕面市立病院

高野美香、中山尋文、酒井絵美子、安西香織、金野浩、溝口好美、下辻常介、山本勝輔、山本威久
大阪府立公衆衛生研究所
加瀬哲男、弓指孝博、青山幾子

症例は9歳の女兒。マレーシア旅行から帰国3日後に突然発熱が出現した。発疹の出現はなく、2相性の発熱の経過を示し、白血球数減少、著明な血小板数減少とフェリチン高値、尿中 β 2MG高値を認めるもほえ木の実で治癒した。末梢全血のReal-time PCR法によるデングウイルス2型と血清ELISA法による特異的IgM抗体の検出からデング熱と診断した。

3) 「初期の画像変化が乏しく診断に苦慮した恥骨骨髓炎の1例」

大阪府済生会吹田病院 小児科

利川寛実、片山博視、小川哲、松島礼子、坂良逸、宮本良平、平清吾、岡本奈美、
吉田栄美子

骨髓炎は稀な疾患であるが、診断に至らず早期の適切な治療及び適切なfollow upが行われなかった場合、成長障害等の合併症や再燃の危険性がある。病変部の穿刺、生検は困難なため画像所見が重要でMRIが有用とされるが、極めて初期には所見が乏しいことがあり、注意を要する。今回我々は、発熱と共に出現した右下肢痛のため来院当日、歩行困難となった6歳男児について、早期のMRIに異常が認められなかった1例を経験したので報告する。



----- コーヒータイム -----
(16 : 30 ~ 16 : 45)



一般演題 (16 : 45 ~ 18 : 00) 座長 板垣 裕輔 (市立吹田市民病院 小児科部長)

4) 「体重増加不良を主訴に来院し、代謝性アルカローシス、腎機能異常を呈した一女兒例」

市立池田病院 小児科

北村宅矢、滝沢祥子、磯崎由宇子、新谷研、篠原京子、森田千佳子、牧一郎

症例は、現在7か月女児。妊娠分娩歴に特記すべきことなし。出生後から哺乳不良を認めていた。近医小児科で1か月健診を受け、体重増加不良のため経過観察されていた。生育環境について保健師の介入あり。3か月時、体重増加不良のため当科紹介受診。哺乳不良によると考えられる脱水と、血液検査にて代謝性アルカローシス、低カリウム血症を認めたため入院加療となった。入院後は、輸液、経管栄養を開始し徐々に体重は増加。全身状態は改善したものの、依然として代謝性アルカローシス、腎機能異常は持続している。また経口摂取は一定せず、経管栄養が必要である。

5) 「脳梗塞の9歳女児例」

市立吹田市民病院 小児科

重川周、下寺建太郎、東浦壮志、田中一樹、三輪谷隆史、板垣裕輔、松崎香士

9歳女児。右側頭部痛、呂律困難、左半身不全麻痺が突然出現し、当院救急外来受診。頭部MRIの拡散強調画像にて、右側脳室体部、右内包後脚、右基底核に高信号域を認め、脳梗塞と診断。脳梗塞急性期治療開始し、リハビリテーションも平行して行った結果、左上肢の軽度不全麻痺は残存したが、1か月後には独歩可能な状態まで回復。MRAにて、脳血管の一部に狭小化が認められ、その部位で形成された血栓による塞栓症である可能性が考えられた。

6) 「エンテロウイルス71 (EV71) 感染症に中枢神経症状を来した4例」

兵庫県立塚口病院 1)小児科 2)小児集中治療科 3)小児外科

大森翔子¹⁾、河勝千鶴¹⁾、大場彦明¹⁾、趙有季¹⁾、大西聡¹⁾、竹下扶生子¹⁾、竹下佳弘^{1)、2)}、高原賢守^{1)、2)}、横尾憲孝¹⁾、木村祐次郎¹⁾、飯尾潤¹⁾、前田真治¹⁾、松本貴子¹⁾、毎原敏郎¹⁾、野中路子¹⁾、芥川宏¹⁾、平尾敬男¹⁾、岩間英明³⁾、中條悟^{2)、3)}、片山哲夫³⁾

EV71 感染症(手足口病)に中枢神経症状を伴った4例を経験した。症例1・2は2歳男児、2歳女児。意識障害・失調等を認め急性脳炎と診断し大量 IVIG・mPSL 療法施行。症例3は3歳女児。けいれん群発を認めしたが、短時間で症状改善。症例4は1歳女児。遷延する意識障害のため当院へ転院となり、急性脳炎として脳低温療法を含む集学的治療を施行。中枢神経症状を呈する EV71 感染症は重症化する可能性もあり、適切な治療介入が重要である。

※ なお、当日参加費 1,000 円を徴収させていただきます。

※ 当医会は、生涯教育システム登録研修として認定されております。

単位 (3) 、カリキュラムコード No, (11・26・32・61・62・78)